

[110] 文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26250>

出版情報：文學研究. 110, 2013-03-18. Faculty of Humanities, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



故 村 井 和 彦 教 授

村井和彦教授 略歴

昭和二九年七月一〇日生

学歴

- 昭和五四 三三三一 神戸大学文学部文学科卒業
同五六 三三二五 大阪大学大学院文学研究科前期課程修了
同五九 三三三一 大阪大学大学院文学研究科後期課程単位修得退学
平成二二 三三三三 文学博士（大阪大学）

職歴

- 昭和五九 四一 大阪大学文学部助手
同六一 五五 高知大学人文学部講師
平成元 四四 高知大学人文学部助教授
同九 四四 高知大学人文学部教授
同 一七 一〇 九州大学大学院人文科学研究科教授
同二三 一〇 一三 逝去

村井和彦教授 業績目録

著 書

1. 『盗みの文化誌』 共著（第三章「泥棒の道德」担当）一九九五年二月 青弓社 pp. 九五―一五八
2. 『エリザベス朝の復讐悲劇』 共著（「近代という名の悪魔―マローロウとターナーの二つの復讐悲劇を巡って」担当）一九九七年四月 英宝社 pp. 五四―八二
3. 『意味することのもどかしさ——シェイクスピアにおける言語と人間的行為の研究——』二〇一二年一〇月 英宝社

論 文

1. “Strumpet Fortune: A Study of Shakespearean Tragedy” 一九八一年一月 *Osaka Literary Review* 第二〇号 pp. 八六―九六
2. 「Shakespeare悲劇における‘plotter’たち」一九八二年十二月 *Osaka Literary Review* 第二一号 pp. 二九―四〇
3. 「O without a Figure: King Lear の世界」一九八五年一月 『待兼山論叢（大阪大学文学会）』第一八号 pp. 五一―二〇
4. 「牢獄としての世界そして囚人の夢―『あらし』解明の試み―」一九八七年二月 藤井治彦編 『空間と英米文学』所収 英宝社 pp. 三―三三

5. "Falstaff's False Stuff: An Essay on the Dramatic Language of Sir John Falstaff" 一九九一年七月 *Shakespeare Studies* (日本シェイクスピア協会) Vol. XXVII pp. 111-145
6. 「盗人たちの倫理—『尺には尺を』研究」一九九二年二月 『高知大学学術研究報告』 第四一卷 pp. 175-187
7. 「ことばのスペクタクル—『ヘンリー五世』における演劇的遠近法—」一九九三年六月 『人文科学研究』(高知大学人文学部人文学科) 第一号 pp. 29-48
8. 「逆らうことば—『リチャード二世』におけるレトリックと意味—」一九九四年三月 日本シェイクスピア協会編『シェイクスピアの歴史劇』所収 研究社 pp. 57-74
9. "“apprehension”か“comprehension”か—『真夏の夜の夢』における文体と観客—」一九九四年一〇月 『人文科学研究』(高知大学人文学部人文学科) 第二号 pp. 49-70
10. 「墓を汚す奴隷—*All's Well That Ends Well*における言語のテーマ—」一九九五年一〇月 『人文科学研究』(高知大学人文学部人文学科) 第三号 pp. 15-40
11. 「近代と『う』名の悪魔—MarloweとTourneurの二つの復讐悲劇を巡って—」一九九六年六月 『人文科学研究』(高知大学人文学部人文学科) 第四号 pp. 99-113
12. "The Flower of Aaron: Metamorphoses of Human Activities in *Titus Andronicus*" 一九九八年二月 *Shakespeare Studies* (日本シェイクスピア協会) Vol. 33 pp. 1-29
13. 「呼びかけのあやふさ—*The Winter's Tale*の場合—」二〇〇〇年三月 『藤井治彦先生退官記念論文集』所収 英宝社 pp. 267-283

- 14 「狼鳥の子羊—『ロミオとジュリエット』における複合語の使用について—」二〇〇〇年七月 『人文科学研究』 第七号 pp. 九一—一〇四
- 15 “The Other Tongue: Synonymy and Metalingual Consciousness in *Othello*” 二〇〇一年七月 『人文科学研究』 第八号 pp. 三九—五二
- 16 “The Caps of the Many-Headed Monster: The Political Significance of Uncovering the Head in *Coriolanus*” 二〇〇三年十二月 『高知大学学術研究報告』 第五二巻 pp. 一一—二四
 ※本論文を和訳の上、要約したものは、『コリオレイナス』における帽子の政治性』として *Shakespeare News* Vol. 四四 No. 三 pp. 二—一二に再録。
- 17 『コリオレイナス』における帽子の政治性』二〇〇五年三月 *Shakespeare News* Vol. 四四 No. 三 pp. 二—一二
- 18 「祈りのドラマツルギー—『リチャード三世』における宗教と政治—」二〇〇七年三月 『文学研究』 第一〇四輯 pp. 二九—四九
- 19 「シェイクスピアの‘Catechism’」二〇〇八年四月 『九大英文学』 第五〇号 pp. 一七九—一九八
- 20 「そして、そして、そして—『間違いの喜劇』における“and”の用法—」二〇一〇年三月 『文学研究』 pp. 三三—五〇
- 21 「真実を越えて—『アントニーとクレオパトラ』における動作主名詞と誇張の用法—」、『英米文学の可能性—玉井暉教授退職記念論文集—』所収 二〇一〇年三月 英宝社 pp. 二二—三—二二—三三
- 22 「意味することのもどかしさ—シェイクスピアにおける言語と人間的行為の研究—」二〇一〇年三月 博士学位論文（大阪大学） pp. 一—二—三三

学会発表等

1. 牢獄としての世界―*The Tempest* 解明の試み― 一九八四年一〇月 日本シェイクスピア学会第23回大会
2. 呼びかけの危うさ―*The Winter's Tale*―の場合 一九九七年一〇月 日本シェイクスピア学会第36回大会
3. 狼鳥の子羊―『ロミオとジュリエット』における複合語の使用について― 一九九九年一〇月 日本シェイクスピア学会第38回大会
4. 『オセロー』を読む 一九九九年一〇月 日本英文学会中国四国支部第52回大会
5. 祈りのドラママツルギー―『リチャード三世』における宗教と政治― 二〇〇五年一〇月 日本シェイクスピア学会第44回大会
6. 『アントニーとクレオパトラ』を読む 二〇〇七年一〇月 日本シェイクスピア学会第46回大会

書評・解説・総説

1. 日本シェイクスピア協会編『新編シェイクスピア案内』二〇〇八年一月号 二〇〇八年一月 『英語青年』第一五三巻第一〇号 pp.六二一―六三二
2. 「文学的テクストを読む」二〇〇九年九月 講義概要平成21年度後期人文学科共通科目「人文学Ⅰ」『文字を読む』所収
3. Samuel Purchas, *Purchas His Pilgrimage or Relations of the World and the Religions Observed in All Ages and Places Discovered, from the Creation unto This Present*. London. 1614 九州大学百年の宝物刊行委員会編『九州大学百年の宝物』丸善出版 二〇一一年二月所収